

東伊豆町津波防災まちづくり計画

平成25年8月9日



東伊豆町ってどこ？

- 人口 13,555人(7月1日)
- 面積 7,783ヘクタール
- 地勢

南北に海岸線(13.78km)が長く、山地や丘陵地が海岸まで迫っており、漁港や温泉街を中心に発展した地域は、狭小な土地に家屋が密集しています。

■ まちづくりの目標

豊かな自然の中で、心のふれあいと、人のつながりを基本に、潤いのある豊かな地域社会を、住民、企業、行政が協働し目指していきます。

- 夢と笑顔が溢れるまち
- 自然と文化を育む交流と繋がりのまち
- 自主・自立・連帯のまち



東伊豆町の地震津波被害想定

静岡県第4次地震被害想定(第1次報告)

◇想定対象地震:南海トラフ巨大地震(レベル2)

◇最大震度:6弱

◇津波高:最大14m(平均8m)

静岡県第3次地震被害想定(H13)

想定対象地震:東海地震(駿河トラフ)

◇最大震度:6弱

◇津波高:最大4m(平均4m)

東伊豆町の地震・津波対策の考え方

1. 住民の生命・財産を守る。

津波避難の徹底。（地震＝津波＝すぐ避難）

住宅の耐震化。

2. 「自助」「共助」の推進

自分の命は自分で守る。

地域内で協力して取り組む。

3. 避難施設等の整備

住民が安心して避難できる施設等の整備。

東伊豆町の地震・津波対策

1. 自主防災会の組織強化。

町内各地域の孤立化が想定されることから、各自主防災会による救援、救助などの推進。

2. 防災訓練・防災講座の実施。

さまざまな訓練・講座を通じ、防災意識の高揚と、地域を知ることを重点に、災害に強い地域づくりを推進。

3. 拠点施設の整備

地域の防災拠点を再整備。（社会資本整備総合交付金「都市防災総合推進事業を活用）H24～

これまでの地震・津波対策1

海拔表示(205カ所:電柱145箇所・施設60箇所)

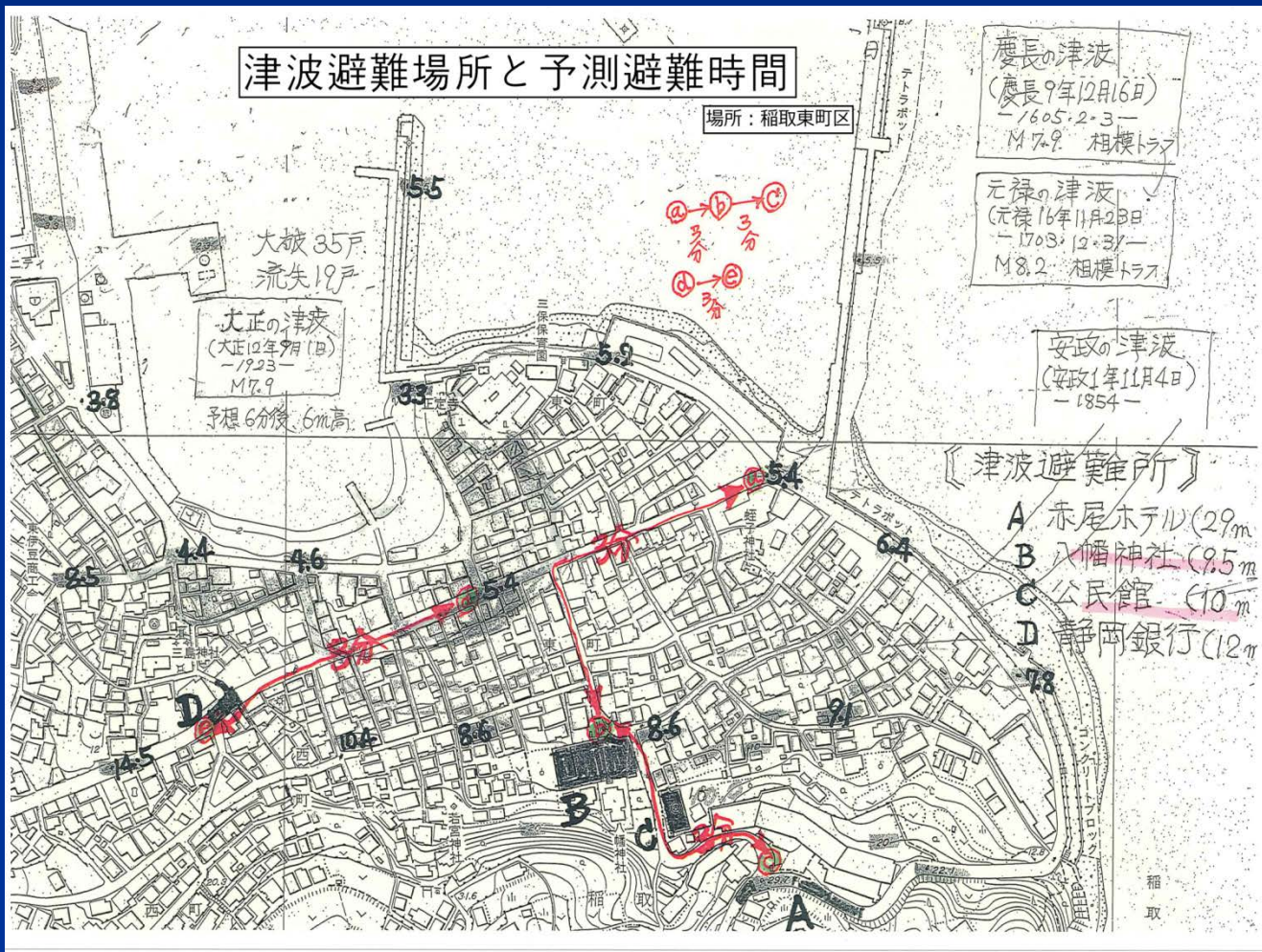
東電・NTT電柱への掲示

公共施設への掲示



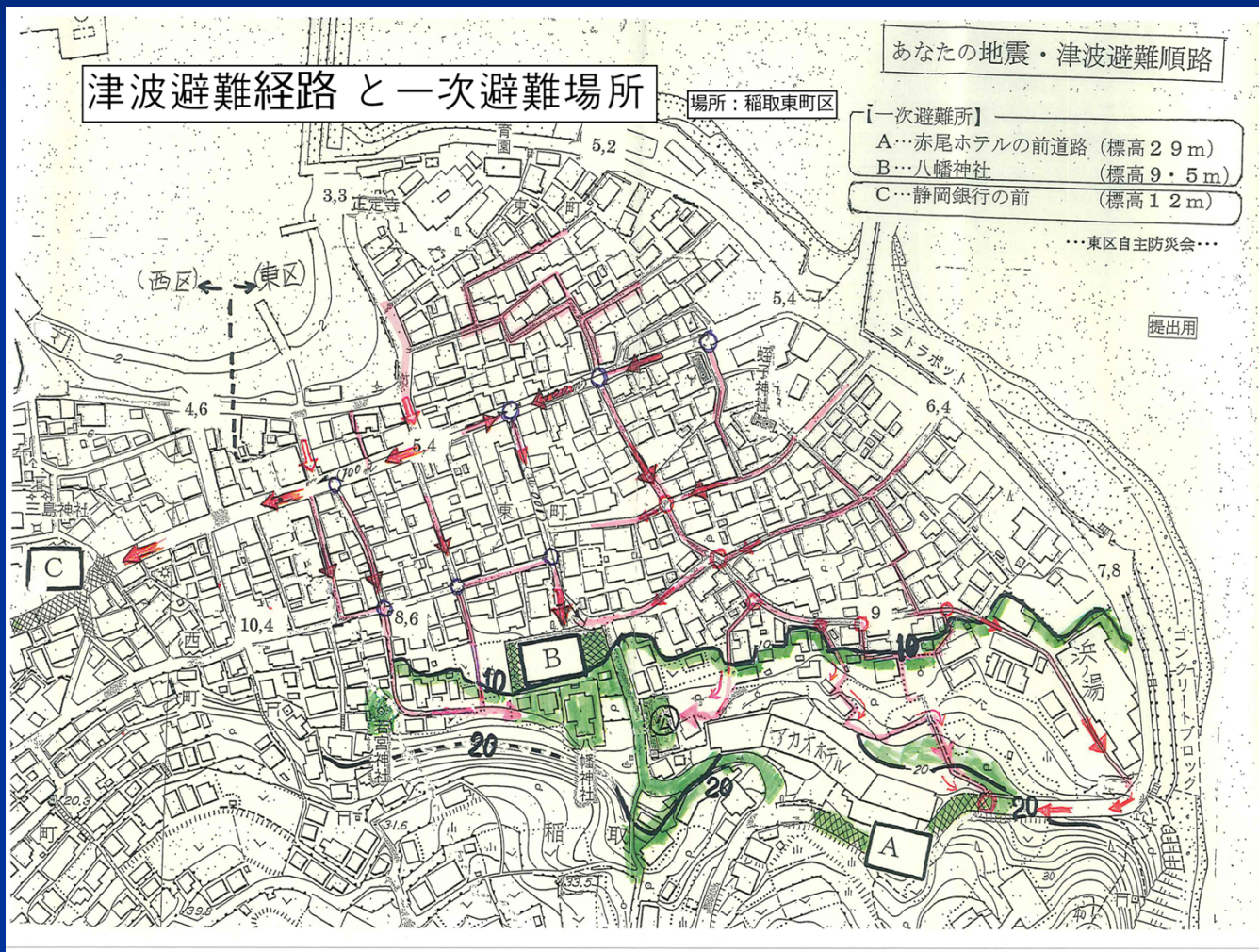
これまでの地震・津波対策2-1

地域における避難路検討



これまでの地震・津波対策2-2

地域による津波避難路地図の作成



これまでの地震・津波対策3

地域防災拠点施設整備（防災センター整備）



北川地区防災センター（H25. 5竣工）

今後の地震・津波防災の課題

1. 津波浸水区域における避難路の確保

住宅が密集し、狭隘道路のため、安全性が確保された避難路の確保が難しい。

2. 耐震性の確保された防災拠点施設の確保

地域の防災拠点となる集会所等が老朽化し耐震性がなく、津波浸水区域にあるため、早急な拠点整備が必要。

3. 防災教育のさらなる推進

東日本大震災から3年を経過し、住民の中に地震・津波防災に対する意識が低下してきている。

津波浸水区域からまちづくりへ

- 津波浸水区域から、まちづくりを考える

まちづくりの視点を、災害対策という観点からも、「地域住民と協働作業」で考え、行動に移していきたい。